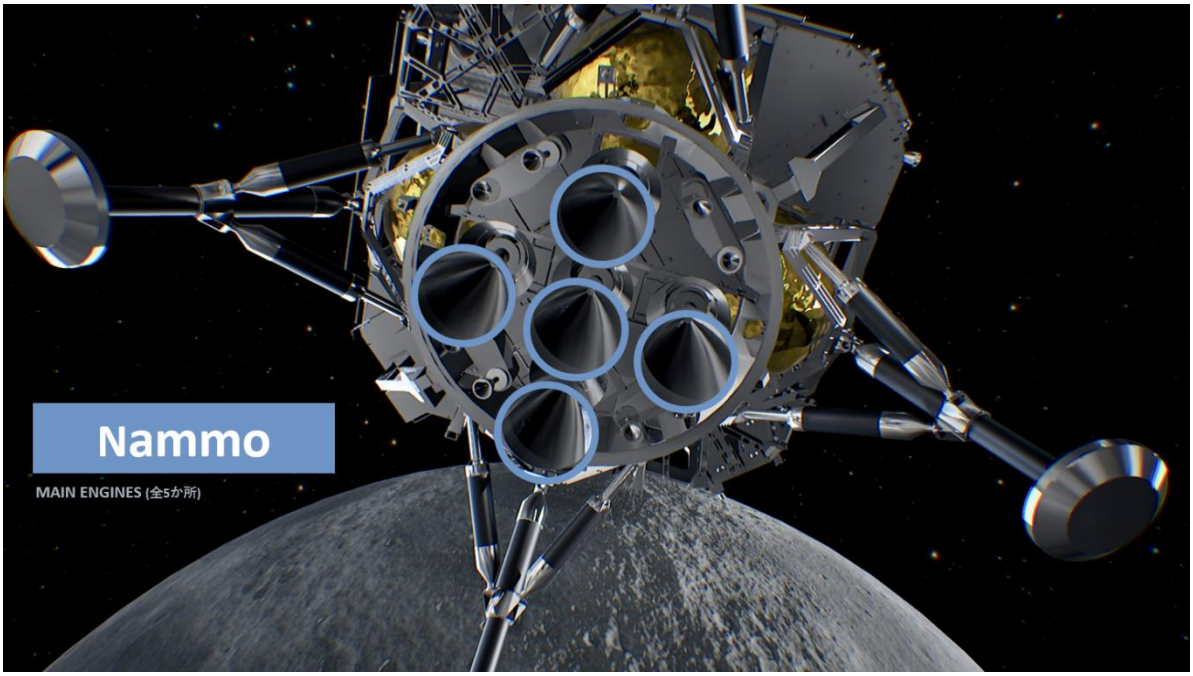
PRESS RELEASE

2026 年 11 月 12 日
株式会社 ispace

ispace、Nammo と長期的な推進系サプライチェーンの強化および調達協力に向けた覚書を締結

高頻度かつ柔軟な月着陸ミッションを実現するための一括調達や
長期の安定的な供給体制について検討

株式会社 ispace（東京都中央区、代表取締役：袴田武史、以下 ispace）（証券コード 9348）は、ノルウェーのラウフォスに本社を置く防衛・航空宇宙企業 Nammo グループの、Nammo (U.K.) Limited および Nammo Ireland Limited（以下、総称して「Nammo」）と、宇宙機向け推進系の調達、製造および関連する事業機会における長期的な戦略的協力について検討する覚書（MoU）を締結しましたので、お知らせします。



Nammo 社製推進系エンジンを搭載したミッション 3 ULTRA ランダーの CG イメージ

本覚書に基づき、ispace と Nammo は、推進系エンジンの一括調達や長期的な供給体制の構築、また、生産計画の連携等について検討し、安定的な調達体制を構築するとともに、コスト競争力の向上や納期の安定化、サプライチェーンの強化を図ります。これにより、ispace は顧客のニーズに沿った月着陸ミッションをより柔軟かつ高頻度で提供できる体制を整え、将来の事業機会の拡大と継続的な収益成長につなげていきます。

現在、ispace の ULTRA ランダーを始めとする月着陸船の開発に必要とされる推進系エンジンは、一般的な大型衛星用エンジンよりも大きい一方、一般的なロケットに使用するエンジンよ

りも小さい、希少な市場分野に属しており、世界的に見てもその供給者は限定的です。加えて推進系エンジンは、発注から調達までの期間が年単位となる、いわゆる「長納期品」であり、開発スケジュールに合わせて適切な時期に調達することが非常に難しいという特徴があります。世界的に月着陸ミッションの増大が見込まれる中、ランダー開発の核となる推進系エンジンを必要な時期に遅滞なく調達できる能力を確保することは、顧客の多様なニーズに応え、高頻度かつ安定的な月着陸ミッションを柔軟に提供する上で不可欠な要素となります。

Nammo は、ESA（欧州宇宙機関）が現在開発中の月着陸船「Argonaut」の主エンジンの設計・供給を担い、他にも地球周回軌道から太陽系探査まで、幅広い宇宙ミッション向けの推進系エンジンを長年にわたり供給してきた実績を有しています。また Nammo の「LEROS4」エンジンは、近年の月着陸ミッションにも採用され、信頼性の高い性能を実証しています。こうした宇宙機向け推進系分野における豊富な実績を踏まえ、ispace は ULTRA ランダーに搭載する主エンジンとして Nammo の LEROS エンジンおよび LEROS 2b エンジンを採用しました。さらに、ispace は Nammo から姿勢制御用スラスターのハードウェアも調達しており、宇宙機開発における Nammo の推進技術の活用を拡大することで、ULTRA ランダーの技術的信頼性およびミッション成功確率の向上を目指します。

本覚書は、これまでのサプライヤーとしての関係を発展させるため、欧州法人である ispace EUROPE および米国法人である ispace-U.S.も署名者として参加します。これにより、日本、欧州、米国をはじめとする世界各地域において、現在および将来の宇宙機開発を支える体制の強化につなげます。

今後 ispace が培ってきた宇宙機開発や運用に関する知見と、Nammo が有する推進系技術および製造能力を組み合わせ、将来の月着陸ミッションを支える安定的かつ競争力のあるサプライチェーンを構築してまいります。

■ **株式会社 ispace 代表取締役 CEO & Founder 袴田武史のコメント**

「持続可能な月の経済圏を構築するためには、高度な宇宙機技術だけではなく、長期にわたりミッションを支える信頼性とコスト競争力を備えたサプライチェーンの構築が不可欠です。Nammo との協力関係を拡大することで、推進系の調達戦略を強化し、生産効率を一層向上させるとともに、ispace がグローバルに展開する将来の月着陸ミッションを支える基盤の構築を目指してまいります。」

■ **Vice President of Nammo Space, (U.K.) Limited. Rob Selby 氏のコメント**

「月探査が実証段階から継続的な運用フェーズへと移行する中、飛行実績を有する信頼性の高い推進システムを安定的に確保することが、これまで以上に重要になっています。今回の合意は、より高頻度かつ柔軟な月着陸ミッションを可能にする、強靭で拡張性が高く、商業競争力のあるサプライチェーンの構築に向けた、両社共通のコミットメントを示すものです。ispace との長年にわたる関係をさらに強化できることを大変嬉しく思います。地球周回軌道から深宇

宙ミッションまで、幅広く実績を重ねてきた信頼性の高い推進システムを通じて、ispace が掲げる意欲的な月探査のロードマップを支えていくことを楽しみにしています。」

■ **Nammo（https://www.nammo.com/）について**

Nammo は、世界 23 か国で事業を展開し、約 4,200 名の従業員を擁する、航空宇宙・防衛分野をリードするグローバル企業です。35 年以上にわたり、商業や機関ミッション向けに宇宙機用推進システムおよび関連技術を提供してきた実績を有しています。

ロケットや人工衛星、月着陸船、深宇宙探査ミッション向けに、推進システム、ロケットエンジン、スラスターおよび関連部品の設計、開発、認定、製造を手掛けています。Nammo の推進技術は、太陽系における先駆的な探査ミッションを含む 100 以上の宇宙ミッションで採用されています。

英国、アイルランド、ノルウェーに宇宙事業の拠点を構え、世界でも特に意欲的な宇宙プログラムに向けて、信頼性と性能に優れた推進ソリューションを提供しています。

■ **株式会社 ispace（https://ispace-inc.com/jpn/）について**

「Expand our planet. Expand our future. ~人類の生活圏を宇宙に広げ、持続性のある世界へ~」をビジョンに掲げ、月面資源開発に取り組んでいる宇宙スタートアップ企業。日本、ルクセンブルク、アメリカの 3 拠点で活動し、現在約 350 名のスタッフが在籍。2010 年に設立し、Google Lunar XPRIZE レースの最終選考に残った 5 チームのうちの 1 チームである「HAKUTO」を運営した。月への高頻度かつ低コストの輸送サービスおよびデータサービスを提供することを目的とした小型のランダー（月着陸船）と、月探査用のローバー（月面探査車）を開発。民間企業が月でビジネスを行うためのゲートウェイとなることを目指し、新たに月周回の自社衛星を活用した、通信・測位を中心とするルナ・コネクトサービスの提供も目指す。2023 年には民間企業として世界で初めて月面着陸に挑戦するミッション 1 を実施。2025 年にはミッション 2 を実施し、月周回までの確かな輸送能力や、ランダーの姿勢制御、誘導制御機能を実証することが出来た。最速 2027 年には新ミッション 2.5 として月周回衛星 1 基を月周回軌道へ投入することを予定。2028 年[i]には、経済産業省の SBIR 補助金を活用し、日本拠点が主導で開発を進めるランダーモデル「ULTRA（ウルトラ）」によるミッション 3 の打ち上げを予定しており、続く 2029 年[ii]には南極近傍への高精度着陸を目指すミッション 4 の打ち上げを予定している。

――――――――――――

[i] 当該打上げ時期については 2026 年 11 月時点の予定であり、今後変更する可能性があります。なお、当社が補助対象事業として採択された SBIR（Small Business Innovation Research）制度の公募テーマ「月面ランダーの開発・運用実証」の事業実施期間が原則として 2027 年度とされており、SBIR 制度に基づく補助金の対象となるミッション 3 は、当初 2027 年中の打上げとして経済産業省及び SBIR 事務局と合意しておりましたが、2026 年 11 月時点では当社内の開発計画上、2028 年内の打上げとなることを見込んでおります。本変更については今後、関係省庁及び SBIR 事務局と調整中の段階であり、最終的には経済産業省により正式に計画変更が認可されることとなります。

[ii] 2026 年 11 月時点